

熊本地震災害派遣薬剤師・九州ブロック現地活動報告 No.2

平成 28 年 4 月 22 日

- 【派遣日程】 4 月 16 日（土）～4 月 17 日（日）  
【報告者】 福岡県 工藤 信孝  
【メンバー】 脇園 隆二, 星野 正俊, 工藤 信孝  
【派遣先】 益城総合体育館  
【交通状況】 大きく迂回  
【ライフライン】 大きく破たん  
【活動内容】 個人レポートにて提出

- 
- 【派遣日程】 4 月 17 日（日）～4 月 18 日（月）  
【報告者】 福岡県 有吉 俊二  
【メンバー】 里村 尚俊, 山内 健太郎, 有吉 俊二  
【派遣先】 益城町総合体育館  
【交通状況】 北九州市八幡から熊本県薬まで 3 時間。  
熊本県薬から体育館まで 40 分（通行止め、段差、亀裂が多いため、  
役場そばに駐車し、徒歩 7 分にて体育館着）。  
【ライフライン】 電気は体育館で自己発電、ガス・水道なし  
【活動内容】 調剤業務（含 Dr への処方提案）。被災者体調相談。  
発注と納品の書類システム構築。DMAT 提供医薬品等の薬効別整理。  
犬等の汚物処理（次亜塩素酸等が無いので、アルコール消毒した）。  
災害時院外処方箋発行業務。

- 
- 【派遣日程】 4 月 18 日（月）～4 月 20 日（水）  
【報告者】 佐賀県 大野 太  
【メンバー】 久保 博嗣, 古賀 哲郎, 大野 太  
【派遣先】 益城総合体育館・益城福祉センター  
【交通状況】 13 時に佐賀県薬出発。有明沿岸ルートを選択。

玉名以降熊本市街地に抜けるまで断続的な渋滞。

熊本県薬到着が 17 時（所要時間約 4 時間）

熊本市街地は渋滞あるものの道路、信号は問題なし。

益城町に近づくにつれ家屋倒壊、地盤沈下による通行止め、動かない信号機が目立つようになる。

【ライフライン】 避難所はガス、電気、水、全て復旧していない。

自家発電で補っているので電気問題なし（使えるコンセントは限られている）。

生活用水は自衛隊が補給。

【活動内容】 益城総合体育館・・・日赤が設けた診療スペースに薬剤師も入りドクター問診時に薬剤師が付き添い処方薬の調整を行い投薬。カルテに処方薬を書き込むので処方箋はない。

益城福祉センター・・・館内救護所で医師が診察し処方箋発行。調剤場所はモバイルファーマシー内で行う。

---

【派遣日程】 4 月 19 日（火）～4 月 20 日（水）

【報告者】 福岡県 園田 茂

【メンバー】 紫村 優香, 山口 信也, 園田 茂

【派遣先】 益城町総合体育館

【交通状況】 九州自動車道:久留米～南関 IC ⇒国道 501（目立った混雑はなし、所要時間 3.5 時間）、熊本県薬⇒総合体育館（体育館周辺は震源地に近く道路の破損があり、通行止め多数 カーナビ 25 分のところ 1 時間近くかかる）

【ライフライン】 電気の供給は安定。断水状態で自衛隊の給水車で避難者がようやく流水で手洗いができるような状態になりつつある段階。薬剤師は日赤が確保した大型テント内の仮眠所を利用していいと言われている。

4 月 20 日に館内スペースを一部確保、医療従事者の休憩・仮眠に使えるようになったが全体的にスペースはなく、女性は特に車中泊の準備も必要。

【活動内容】 ◆4 月 19 日より館内にあった救護所を日赤兵庫県支部が設置した dERU（緊急対応ユニット）内に移動、薬局機能も同様に移動した。

◆日赤の医療チームは 8 時間交代、国立病院機構のチームや 20 日からは JMAT の医療班も dERU 内で診療を行う（診察ブースは 3 カ所）

◆薬剤はそれぞれのチームが持参するので混乱が生じないように使用する優先順位を決定した。

①日赤チーム（撤収時に薬剤も持ち帰る）

②日赤兵庫県支部の薬（dERU 撤収時まで置いていくとのこと）

③県薬確保の薬剤

◆お薬手帳の持参率は2割程度、記入時は特にお渡しの時刻や施設名を忘れず記入するよう徹底した。

◆エコノミークラス症候群の予防のため医師主導のもと、初期症状や予防の方法のレクチャーを受けたボランティアをサポートする形で薬剤師、ボランティアのチームを作り、車中で避難している方を巡回。気になったら早めに救護所へ来てもらうよう注意喚起を行った（実際に2名程度受診された）

今後は定期巡回、館内の被災者への巡回も予定。

◆流水による手洗いができないためノロウイルス対策として、次亜塩素酸Na液を準備、清掃ボランティアと協力して屋外の仮設トイレ清掃後の消毒作業を行う。

今後は嘔吐、下痢を発症した避難者への対応として

①施設管理者、救護所への連絡体制

②患者の隔離スペース、専用トイレ等の確保が可能な

③吐しゃ物の処理手順

などを協議していく。

---

【派遣日程】 4月19日（火）～4月21日（木）

【報告者】 鹿児島県 東郷 和彦

【メンバー】 柳瀬雅史，田中孝明，東郷 和彦

【派遣先】 益城総合体育館

【交通状況】 各自、鹿児島県薬の集合の後、レンタカーで午前6時熊本県薬へ出発。

10:30 熊本県薬に到着。現状報告を受け、12:00 体育館到着。

途中、道路の不通箇所あり。

【ライフライン】 休憩テント内での仮眠、軽食の摂取は可能だった。

【活動内容】 ◆4/19 12:00 熊本県薬大森先生より現状報告あり。

ノロ感染症対策、及びエコノミークラス症候群対策として次亜塩素酸液での除菌を行えるように具体的計画を挙げる。エコノミーに関しては車中泊者を対象に注意喚起し、対象者の早期発見に努めた。

外来対応、不足薬の発注も並行しながら実施。

22:00 東郷が全体会議に出席

◆4/20 3時間の仮眠を交互に確保。

AM7:00の全体会議において、鹿児島県薬としてノロ対策支援を中心に施設感染症マップ、感染症発現タイムテーブル、及び次亜塩素酸除菌液の作成キット、持ち運びのための事前準備を行う。

AM11:00 感染症マップは医師の指示のもと、除菌に向かうことをMTにて打ち合わせした。

午後、トイレ除菌、降雨に備えた対策を協議。マット、傘立て、ビニールシートでの養生強化。

19:30 エコノミー症候群の早期発見のため、日赤のDr指示の下、屋内及び車中泊の方々へ聞き込み実施。屋内1名を受診勧奨。車中泊1名を付き添いにて診察へと案内。医師が弾性ストッキングにて対処。

22:00 全体MT出席。夜間輪番制について

◆4/21 7:00 全体MT出席。

8:30 薬剤師のMT出席

調剤班、衛生班、OTC対応について検討。

日に日に状況、対応に変化があり環境が整備してされていくことを実感した。

救護テント横の休憩テント内の整理整頓。ゴミ処理等のルールを作成し後継していく。最後に二酸化炭素濃度検査と消毒液の補充、トイレ清掃を行った。

(提案) 休憩テント内に除菌液、水、食べ物、その他、諸々が散乱している。

状況が落ち着いてきつつあるため、長机2~3台にて整理し、休憩所として活用スペースを確保できると思われる。